

たんぼぼ館と地域コミュニティの可能性は ∞

ムゲンダイ

第13号で特集したローカルメディアワークショップでは、廃校活用などについて参加者の関心が高かったため、今回は、子どもたちを中心としたコミュニティに着目しました。学校を核とした地域コミュニティについて、学校の再編によって2019年(平成31年)に閉校を迎えた国分寺西小学校区と、2022年(令和4年)に閉校を控える吉田西小学校区の方にお話を伺いました。



こまろ

写真

下毛野朝臣古麻呂
(しもつけのあそんこまろ)
(大宝律令の選定に携わった
下野市ゆかりの人物)



下野市は中学校区ごとに「目指す子どもの姿」を設定し、小学校と中学校の先生が授業の進め方などを一緒に考える小中一貫教育を推進していますが、中学校区によってその形態が違います。例えば、国分寺中学校区は「施設隣接・分離型」、南河内中学校区では「施設一体型の義務教育学校※」、南河内第二中学校区と石橋中学校区は「施設分離型」という施設形態をとっています。

※義務教育学校・・・小学校から中学校までの9年間の過程を一貫して行う学校。2013年(平成25年)11月に策定した『下野市学校適正配置基本計画』の中で、南河内中学校区は『将来的に小中一貫教育の推進を図る学校区』として位置づけられています。

旧国分寺西小のランチルームが姿西部考古台地コミュニティセンター「たんぼぼ館」として活用されています。(第13号らいさまNEWS参照)「たんぼぼ館」の管理者である近藤さんに聞いてみました。



閉校して3年たったけど、国分寺西小学校は地域の人にとってどのような場所だったの？

閉校はやっぱりさみしいですね。国分寺西小の運動会は学校の運動会というより地域の運動会という感じでした。グラウンドの整備などに地域の皆が参加していたのも、そこに地域の子どもたちがいたからという部分も大きかったと思います。運動会にはお囃子が来て、子どもたちもその場でお囃子を体験することができました。久しぶりに会う人たちが、「元気だった?」なんて声を掛け合える皆が集う場所でしたね。現在は樹木も切って景観も変化しましたし、グラウンドも芝が生えているので運動会ができるような状況ではないです。



姿西部考古台地コミュニティ推進協議会
近藤令児会長
(のりこ)

姿西部考古台地コミュニティ推進協議会は、当初は現在の聖武館を拠点として1977年(昭和52年)に設立された市内で最も古くからあるコミュニティ組織であり、たんぼぼ館の指定管理者です。国分寺西小学校区である川西・南国分・国分1~3・紫に箕輪を加えた地区で構成されています。



べにまる



校庭も景色が変わりました。



つながッテルね!
条例14条

(コミュニティ組織の責務及び支援)

第14条 コミュニティ組織(市民活動団体を含む。)は、適正な団体運営を行うとともに、自らの責任のもと、市民活動を推進し、その活動が広く市民に理解されるよう努めるものとする。